

先生が選ぶ特別賞 受賞

群馬県立利根実業高等学校

高校名	群馬県立利根実業高等学校	所在地	群馬県沼田市
団体名	生物資源部		
活動タイトル	イノシシ侵入防護研究と地域への普及活動		
活動の分類	授業の一環 高校の有志	授業の課外活動 校外の環境活動団体	生徒会委員会 クラブ活動 その他

＜環境活動＞

1. 活動のねらいとこれまでの活動（テーマ、ねらい、きっかけ、昨年度までに行ってきたこと、その成果など）

平成22年度より、イノシシの圃場への侵入防護研究をしています。活動の目的は、地域問題である野生動物による圃場への侵入被害を無くし、農業収入を確保することです。昨年までの成果として、環境にも配慮し、農業廃材の園芸用青ポットと廃棄軍手を再利用した移動が可能な仮設型侵入防護柵を製作しました。そして、平成27・28年度にイノシシ被害の遭った水田に設置し、イノシシの侵入被害を防ぐことができました。その成果を第2回全国ユース環境活動発表大会や日本哺乳類学会2016などの大会で普及活動の一貫として発表してきました。



しかし、全国ユース環境活動発表大会に参加させていただき、研究の継続も重要であるが、研究成果を地域へどのように普及させていくかが重要であるのではないかと痛感しました。そのため、研究活動の継続とともに、現在、地域への普及活動に向けた取り組みを重要視した活動にも取り組んでいます。



2. 活動の詳細（今年実施した内容、手法、着眼点、地域との連携、協力・協調など）

最初に、イノシシの侵入被害対策研究について説明します。昨年まで、イノシシは2色型色覚で赤緑色盲のため、青色以外は認識できないことを利用して、農業廃材の園芸用青色ポットを利用した侵入防護柵を製作し、イノシシの侵入被害を防ぎました。

しかし、「昼間はイノシシが認識できても、夜間では認識できないのではないか」との疑問を感じ、現在、イルミネーション用青色LEDライトと園芸用青色ポットを組み合わせた侵入防護柵実験を行っています。イルミネーション用LEDライトは、冬季に街路樹等でイルミネーションとして使用されますが、春季から秋季にかけて使用機会が激減します。つまり、農繁期に使用されていません。そこに着目し、イルミネーション用青色LEDライトを有効利用しました。そのため、費用を掛けずに実験することができました。そして、夜間でもイノシシの侵入防護が可能になり、侵入防護実験は成功しています。

次に、普及活動について説明します。昨年度までは、計画的な普及活動は少なかったことが反省点でした。そこで、1.目標と目的を明確化して行う、2.効果的な普及方法として、多くの大会に出場し成果をあげ、マスコミに多く取り上げていただく、3.プレゼンテーション力を向上し、分かり易い情報発信を行う、などを活動目標として普及活動に取り組みました。

特に、地域への普及手段として、地域行政機関などに対して発表の場を設けていただけるように連携を図りました。

<環境活動>

3. 活動の成果（今年実施した活動の成果、影響、目標達成、改善度、情報発信など）

イノシシの侵入被害対策研究では、演習林でイノシシの出没が多い地区に青色LEDライトと園芸用青色ポットを組み合わせた侵入防護柵を設置しました。設置前は、高い確率で出没していましたが、設置後は、現在まで約6ヶ月間イノシシの侵入がありません。青色LEDライトを有効利用することにより、イノシシの侵入被害を防げることが可能であると推測できました。

普及活動は、1.小学生を対象とした啓発活動、2.中学生を対象とした啓発活動、3.高校生を対象とした研究発表活動、4.地域農家・行政関係機関を対象とした研究発表と普及活動、などについて目標と目的を明確化して行いました。

小学生に対しては、イノシシの理解を中心に行いました。イノシシ対策は中山間地農業にとって、今後も解決できない継続的な課題です。そのため、農家だけへの普及活動だけではなく、小学生からの啓発活動も重要視する必要があると考え実施しました。

中学生に対しては、出前授業でイノシシ被害が地域問題であることを理解してもらえるように、スライドを使いながら行いました。また、一人でも多くの中学生がこの研究活動に共感し、本校に入学して研究を継続してもらいたいと考えながら取り組みました。

高校生に対しては、ポスターセッション形式で行い、意見交換や情報交換ができるように実施しました。

また、高校生が参加する大会にも出場し、全国高等学校総合文化祭自然科学部門ポスター発表では奨励賞、高校生ボランティア・アワードでは特別表彰(ももいろクローバーZ賞)されました。また、テレビ番組でも活動が紹介され、多くの高校生に情報発信をすることができました。

地域農家には、スライドによる説明と意見交換を中心に行いました。地域農家・行政関係機関での普及活動では、前年度と比較して、本校でのイノシシ被害対策研究に対する認知度が高まり、園芸用青色ポットの代わりに、廃材のブルーシートを利用した防護柵を設置した農家もあり、徐々にではあるが地域に普及していることが実感できました。また、農家との意見交換を行うことができ、イノシシ研究の情報収集を行えました。

また、今年は農林水産省等主催「聞き書き甲子園」にも参加し、山名人の方からも鳥獣被害対策や野生動物との共存について、インタビュー形式による情報収集活動も行っています。

4. 活動からの学び（今年実施した活動を通じて学んだこと、今後の計画や目標など）

昨年度までは、イノシシ研究を中心に活動してきました。しかし、その研究成果を普及するための情報発信が不十分でした。そのため、普及活動にも重点を置きながら活動しました。

この1年間で、研究活動の継続の重要性、研究成果の地域への普及活動を通して地域貢献の必要性などを学習することができました。

本校は、ユネスコスクール加盟校です。そして、環境教育活動や地域貢献活動を中心に取り組んでいます。今後は、ユネスコスクールのネットワークを生かしながら、野生動物被害の理解と野生動物被害対策研究の成果の普及活動に取り組んでいきたいと考えています。

以上